

仙台市地震防災アドバイザー室へようこそ!



いつもご覧いただきありがとうございます。
今回の更新で19回目となりました。
100万人の防災!地震対策は今日(京)から始めましょう!

■トイレが大変!

平成18年10月3日掲載

揺れた後……

このページを以前からご覧いただいている皆さんは、20XX年X月X日に発生した宮城県沖地震から見事、命を守る事が出来ましたね。ほんとうによかったですね。

深夜に発生した地震にもかかわらず、枕元に用意しておいた懐中電灯の灯りとスリッパのおかげで物が散乱する暗闇の中でも無事避難ができたようですね。



今朝は準備していた非常用の食料をカセットコンロで温め、おいしく召し上がったようですね。そろそろ朝の日課……ということで、今回は被災後のトイレについてお話したいと思います。



「水分を取らなければ生きていけない。」「食べなければ活動出来ない。」ので飲料水を備蓄し、非常用の食糧を確保してきました。しかし、それ以上に人間にとって排泄は必要不可欠なものです。

皆さんのお宅にある水洗トイレ。当たり前には使用していますが、1回のトイレ使用でどの位の水を使うか御存知ですか?
1回10リットル程度と言われていました。
1日の使用量として10リットル×回数(5~6回)≒50~60リットルという事になります。
平成16年度に仙台市水道局が調べた仙台市民一人当たりの1日の水道使用量が約220リットルという数字があります。1日に使う水の約1/4をトイレで使用している事になりますね。

地震では、往々にしてライフラインが遮断しますので、トイレのタンクに水が自動的に補給されなくなります。このため、どこかから水を汲んできて流すことにはなりますが、1回につき、バケツ1~2杯の量が必要です。「皆さんのお宅には、この水がありますか?」

阪神・淡路大震災の時のトイレにまつわる惨状をまとめた本から一部を御紹介します。

『当然、水洗トイレの水は出ない。ほんの先程まで出ていた水も止まった。完全に水が止まった。あちこちのトイレ便器は瞬く間に糞便の山。いわゆる「糞便のて

「んこ盛り」状態になった。拭いた紙クズや持ち込んだゴミ類が散乱から堆積状態になっていった。両足を置くスペースもないほどに溜まった。「何だ。この便器。糞の山やで！」「ともかく、ここでするしかないのや！」
(「トイレが大変！」山下 亨 編著 近代消防社 刊から引用)

このように悲惨な状況だったようです。

☆ 公助のトイレ

避難所となる市立学校も同じです。
ライフラインが止まれば家のトイレと同様に水洗トイレは使えなくなります。
このため、仙台市では避難所となる市立学校に、1箇所当たり5基の組み立て型仮設トイレを配置しています。

下の写真は、鶴ヶ谷市民センターが中心となって開催した「避難所ボランティア養成講座」において、避難所にある仮設トイレの組み立て方を研修した模様です。



最初に、研修会に参加した40名の皆さんだけで取扱説明書を読みながら試行錯誤して組み立てました。要した時間は、約20分だったそうです。(他日、ある町内会が実施した時は、1時間以上の時間を要したという話も聞きました。)

その後、環境局の職員の指導を受けて、約10分で組み立てました。
セットごとに組み立ての説明書が付いていますので、誰でも組み立てることが出来ます。
是非、地域などで行う防災訓練の種目に「仮設トイレの組み立て」を加えて、一度体験してみてもはいかがでしょうか。

仙台市にはこのタイプの組み立て型仮設トイレが約1,000基あり、各避難所に備えてあります。また、新たに今年度中に10万個の携帯トイレを購入して備えることとしています。

☆ 自助のトイレ

水道が止まった場合に、汲み置きの風呂水を使って自宅の水洗トイレを使用するにしても、庭に穴を掘って済ますにしても限度があります。
近頃は、DIYショップやホームセンターなどで携帯トイレや自宅の便器を使った水のいらぬ簡易トイレなどが市販されています。どんなものなのか是非ご覧になって、どのような備えをしたらよいのかを考えてください。

地震対策の一番のポイントは「命を守る手立て」ですが、以前の生活に戻るまでの間の過ごし方を考える事も大切です。